



みみよい



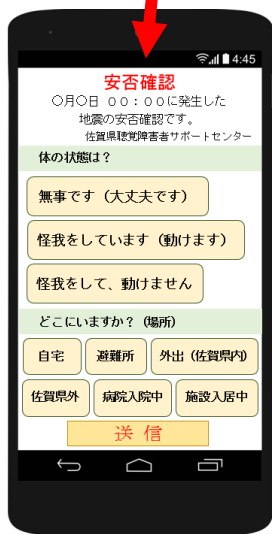
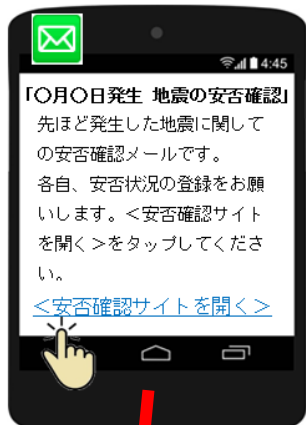
第 39 号

平成 29 年 6 月 15 日発行

佐賀県聴覚障害者
サポートセンターだより

なお知らせ！

みみの記念日：3月3日耳の日 6月6日補聴器の日 9月9日人工内耳の日



東日本大震災で聴覚障害者の死亡率が、2.00%と東北3県(岩手・宮城・福島)の総人口の死亡率1.03%に比し2倍になっていました。災害発生情報や避難情報が入手できなかったことが要因です。被災者も食料・水・物資の配給場所や時間が分からず、厳しい避難生活を強いられました。昨年の熊本地震で死亡者の発生は免れましたが、避難生活も同様でした。

佐賀県でも洪水・台風に加えて佐賀平野北縁断層地震、原子力発電所の事故等の大規模災害に備える必要があります。東日本や熊本の教訓を基に情報提供施設としての役割を踏まえ、まずは発生時の当事者・情報支援者の置かれている状況を把握して必要な避難、支援に繋げること、被災後の配給・給水・支援物資配布等の情報を提供することに絞り、災害時安否確認システムを構築することにしました。

システムはあらかじめ登録された方へスマートフォン等により安否のメールを送信、返信してもらうことにより確認、その後随時状況の変更により更新します。対象は県内在住の聴覚障害者と手話通訳・要約筆記の情報支援者とします。高齢聴覚障害者の一人又は二人世帯の方で、スマホの使用が困難な場合は家族等の登録も対象とします。テストをくり返して災害に備えます。

災害時安否確認システム

聴覚障害者・情報支援者の登録開始

WORK WORK WORK WORK WORK

ろう者は第1言語が手話であり、日本語は第2言語である。

助詞・副詞・尊敬語等の使い方を苦手としている。乳幼児は生後3年間で15000時間の日本語を聞いているのに比べ、会話が聞こえないハンデがある。これには、日本語の文法を教えることが必要です。

一方、企業サイドでは、ろう者を雇うのはバリアフリーの工事も要らず簡単だが、孤立化して転職が多い。外見では分からないことや、担当者が変わって、配慮を忘れてしまうことが多い。少しの配慮と出来る限りの情報保障をすると社会で活躍できます。

そして仕事も倉庫番や清掃のみではなく、IT系や飲食系の職業教育により、もっと幅を広げることができます。

出席者からはろう者目線を持ち続けること等に改めて気付かされた、といった感想が寄せられました。

この講演会を契機とした企業間の情報交換をもっとする場が欲しいとの声を受けて、当センターで定期的な情報交換会を立ち上げます。第1回目は7月7日14時～16時センターで行います。



県職員の自治研修所 レナセルで今年4月に採用された141名が2班に分かれて(5/26・6/2開講)、当センターの手話通訳士から手話についての講義と名前やあいさつ等身近な手話を学びました。



健聴者と理解を深め、働きたい 中島隆編集委員の講演会

～ろう者の孤独と一億総活躍社会～

のテーマで、中小企業の現場取材を続けられた朝日新聞中島編集委員の聴覚障害者理解啓発講演会を行いました。(5月25日) 企業・学校・市町・社協の担当者など30名が参加、中島編集委員は自身ろう者と手をつなぎたくて手話を学び始め、手話技能検定試験準2級を取得されています。



シリーズ補聴器

補聴器と車の運転



先日、ウインカーを付けっぱなしで交差点を直進する車とすれ違いました。「曲るのかな？」と思ったら直進してくるのでヒヤリとしたのですが、今になって思うとウインカー音の「カッチッ・カッチッ・カッチッ・カッチッ」が聴こえておらず気付かずに運転されていたのかもしれない。ドライバーも高齢の方だった気がします。もしかしたら「聴こえにくさ」を抱えたまま運転されているのでは？と心配になりました。

「高齢者の運転は危険だからやめたほうがいい」と周りが言うのは簡単ですが、やはり生活のためには運転せざるを得ないのが実情なのでしょう。

ご来店される高齢のお客様にも車利用の方も多い。不安を抱えながらも車を手放せない理由を伺うと、

- ・足腰が弱くなり荷物を持って歩くのが困難だから、日常の買い物や治療での通院に車は欠かせない。
- ・家族も一緒に住んでおらず、頼ることができない。
- ・車なしでは生きていくことができないと切実に訴えられます。

聴こえづらさを抱えたまま運転することは、ご自身だけでなく周りの人にも危険が及びます。

- ・パトカーや救急車が近づいてきても気づかない。
- ・エンジン音が聞き取りづらく、エンジンのかけっぱなしに気づかない。
- ・踏切の警告音に気づかない。
- ・ウインカーやハザードを消しそびれてしまう。

などの心当たりがあれば安全のためにも「聴こえと補聴器」をすぐにでも見直しませんか。正しく聞こえて素早く危険に気付くことで、事前に交通事故も防げることがあると思います。

聴こえに不安がある方はサポートセンターにご相談ください。

聴こえについて親身になって相談にのってくれますよ。

岩永補聴器店 代表取締役
岩永 行弘



29年度事業計画了承 第1回運営委員会開催

指定管理2期目のスタートの運営委員会を5月25日に開きました。

- ・28年度の事業報告
- ・26-28年度のまとめ
- ・29年度の事業計画
- ・安否確認システム等について論議があり、いずれも了承されました。



質疑では、

- ・中石委員から聴こえのセミナーは補聴器だけではなく、モバイル式のコミュニケーションも開発したので、もっと多様にやるべきである。

- ・芳野委員長からは要約筆記養成講座の修了率が低いことや、全国統一手話通訳者試験に4名が合格されたが今後の活躍の場はどうなっているか、さらには、諸富小や勸興小の生徒が来館されているが今後の展開はどうするのか。との質問があり、センター長らが答弁しました。

大町町 巡回聴こえの相談

70代、80代の男女3名が聴力測定、補聴器の相談をされました。相談後には、「高齢になると遠くまで外出できないので助かりました。」と笑顔で帰宅されました。(5月31日) 次回は**6月21日三瀬支所内会議室**にて行います。(要予約)

みみサポーター養成講座開講

4名の受講生で聴覚障害者理解を深め、必要なサポートを学ぶ講座が始まりました。6月11日、18日と全3回です。普段、相談業務で聴覚障害者と関わる受講生の方々と意見交換を行いながら進めていきます。(6月4日)



ユニバーサルサウンドデザイン社から、6月よりコミュニケーションの新しいタイプの持ち運びできるモバイル型対話支援システム・SE卓上型対話支援システムをセンターに試聴用として置かれています。

病院・窓口・訪問介護・学校などで幅広く使用されている製品です。



きこえのセミナー

講師：池田正樹氏 (スターキー池田補聴器)

参加料**無料** 会場：当センター

赤外線補聴援助システム・要約筆記を用意しております。

7月11日(火) 13:30~15:30

山口先生の医師相談

2回目の医師相談がありました。相談者はなく、池田補聴器店の原田氏と言語聴覚士で、医師に症例相談を行いました。(5月27日)

次回は、**6月24日(土)10時~12時(要予約)**です。

佐賀県聴覚障害者サポートセンター

〒840-0826 佐賀市白山二丁目 1-12 (佐賀商工ビル4階)

TEL: 0952-40-7700 FAX: 0952-40-7705

メールアドレス: info@saga-mimisapo.jp

ホームページアドレス: <http://saga-mimisapo.jp/>

<開館時間>

9:30 ~ 18:00

9:30 ~ 20:00(水曜)

<閉館日>

毎週月曜日、祝日